

句集
二の杉

阿部
ひろし

「二の杉」は居間の西窓から見える丘に立つ木に自分で名付けたもの。そこが今の生活の主な場所であり、そこで本気で詠み、自分を励ましたり、楽しんだりしている句が多い。

(「あとがき」より)

朝
ご
と
の
夜
明
花
な
り
山
法
師

画
眉
鳥
の
声
に
渦
巻
く
梅
雨
の
霧

聞きとめし河鹿のこゑぞ聞きひたる

杉の秀の梅雨萌え白し雨の谷

青
梅
雨
の
板
東
太
郎
た
ぎ
つ
な
り

白
河
の
梅
雨
の
青
田
を
よ
ぎ
り
け
り

五大堂梅雨の青さに包まれし

早起か夜更しか今ほととぎす

にいにいのこゑを頭上にして立てり

櫃の実の青さ朝日に匂ひけり

半島の大根あをし十二月

所在なく咲くたんぽぽや十二月

磯
波
の
利
休
鼠
に
虎
落
笛

日
の
漏
れ
よ
磯
辺
明
り
に
石
路
の
花

磯山の笹原がくれ冬菜摘む

冬の海かのこしぼりの波結ぶ

鮪
の
町
柳
が
青
し
十
二
月

黄
葉
か
つ
散
る
な
り
雨
の
大
銀
杏

冬夕日丘に触れつつ燃ゆるなり

訪ね来しころの隅の枇杷の花

綿虫のはや大綿となりて舞ふ

刈株の田を立ちつぐは何雀

つ
つ
が
な
き
己
が
勤
労
感
謝
の
日

丹
波
よ
り
と
ど
く
黒
豆
十
二
月

椋
二羽によき
広さなり
芝枯るる

極
月の那須
野ヶ原に
雪降り

雪見風呂垂氷見風呂となりて明く

平家村雪の山垣に射す朝日

平家村たちまち雪に沈むなり

蠟梅にさす日燦々寒に入る

牧
広
し
子
鹿
は
母
の
乳
を
追
ふ

朝
歩
き
泡
吹
虫
と
ふ
と
遊
ぶ

植田中伊那には倉の家多し

朝日さす峡の植田のうすみどり

伊那に来て茅花流しの中に立つ

分杭峠柳絮しきりに越ゆる日ぞ

決りたるところと庭の梅雨茸

紫陽花や寺院にて売る恋みくじ

林中に面輪涼しき観世音

伽羅路の数本欲しき朝餉かな

箱ながら庭に青田のそよぎあり

待つとなく今年も咲けり菫の花

隔雲亭芝うつくしく枯れみたり

倭舞舞ひをさめたる淑気かな

まんさくの咲くか咲かぬか眩しき日

二の杉を二月の夕日越えむとす

芽
吹
き
た
る
丘
に
月
あ
る
朝
月
夜

家
々
の
梅
白
々
と
淡
々
と

二の杉を越えて三月の夕日あり

学園の木といふ辛夷咲きにけり

葉牡丹も茎立ちまさに塔と咲く

目瞑れば光まとへり牡丹の芽

句集 ^に ^{すぎ} 二の杉

本阿弥新俳句叢書

2007年4月29日 発行

定 価：本体2900円（税別）

著 者 阿部ひろし

発行者 本阿弥秀雄

発行所 ^{ほんあ} ^み 本阿弥書店

東京都千代田区猿樂町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03 (3294) 7068(代) 振替 00100-5-164430

印 刷 熊谷印刷＋方英社

製 本 関山製本社

© Hiroshi Abe 2007 ISBN978-4-7768-0362-1 (2135)